

キャラクター名
桐月 一茶(とうげつ いっさ)

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン パロール	ワークス	刑事	カヴァー	警官
オプション		年齢	32	性別	男
覚醒	償い	衝動	吸血	初期侵食率	43%
出自	親戚と疎遠	経験	失恋	邂逅	恋敵

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	0	0	1			1	行動値	9
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	9
精神	5	0	0			5	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃	1		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:	2		芸術:			知識:			情報:裏社会	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	5r+4	0	-5		
素手(エフェクト)	白兵	5r+4	4	+Lv+5+6		
ナイフ	射撃	2r+1				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
浅野 治郎(あさの じろう)	P 懐旧	N 敵愾心		
華蔵閣 錐	P 誠意	N 不安		
黒口影	P 執着	N 憎悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
Dロイス:遺産継承者/イフリートの腕	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
支援射撃	4	2	オート	武器	単体	自動	-	
効果:	〈射撃〉武器装備中 判D+Lv 1R1回 自分対象外							
勝利の女神	2	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果:	判定後 達成値+Lv*3 1R1回							
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果:	判定を失敗させる 1つ1回							
戦術	5	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果:	対象R間、メジャーD+Lv個 自分対象外							
白熱(封印の楔)	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	シーン間、素手のデータ変更							
斥力跳躍	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果:	飛行状態で戦闘移動 移動距離+Lv*2m							
漆黒の拳	3	3	Xジャー	武器	単体	対決	-	
効果:	素手白兵 攻+Lv 装甲無視							
コントロールソート	1	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果:	【肉体】判定を【精神】で判定							
CR:パロール	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-2(下7)							
戦神の祝福	2	20	Xジャー	武器	-	対決	120↑	
効果:	攻+[Lv+4]D 1つ1回							
崩壊のスフィア	2	2D10	オート	視界	単体	自動	120↑	
効果:	対象のダX直前 ダX+[Lv*2]D 1つ1回							
プロファイリング	★							
効果:								
変貌の果て	★							
効果:	首と左腕に大きな痣がある。普段は包帯(布)で隠している。							

《人物》
「捜査1課特捜部特例異能事件担当係の桐月だ。」
「上司だからと変な気を使うな。桐月でいい。」
疎まれ者、外れ者ばかりの“異能班”をまとめる、これまた人の道から外れた班長。“冷黒な異端者”という二つ名の通り、常に冷めた態度で部下に厳しく、異能のせいもあり他の部署からは恐れられている。ただ、異能班の面子は、彼が自分自身に対しても厳しく、階級関係なく平等に扱い、危ない仕事でも生きて帰るために、常に冷静かつ真剣であることを知っている。
普段は無表情であるが、仕事がかまくらいったときには笑みをこぼすこともあるとか。

仕事に対するスタンスとしては、正義を重んじるためというよりは秩序を守るため、というもの。基本的には任務を忠実に遂行する。ただし、命に危険が伴うようならば、出来る限りそれを回避する。危険だからこそ、命あることが最優先事項になるのだ。また、それが任務成功に繋がると考えている。(言い換えれば、命を優先するというのは日常に戻りたいと強く思うこと、つまり、絆(ロイス)を大切にすることを、異能者(オーヴァード)にとって重要なことである。)

現代でいうジャームのことを「悪鬼」とよび、事件の犯人だったり、ときには部下であっても、暴走していると判断した異能者を悪鬼として認定、自らと数人の部下を連れて処分している。
暴走の判断基準は、
一、対話不可能
一、命令無視
一、破壊行動
以上を満たすものである。
異能班所属の部下の命については上層部の許可を得た上で一茶が一任されている。
…所詮、異端忌み嫌われ者の集まり。厄介事を解決する“組織”として機能していればよく、中身が死のうが変わるうが、上にとっては“どうでもいい”のだ。